

2018年度実務補習の実施結果

(1) 実務補習の目的※1	公認会計士となるのに必要な品位及び識見、専門的知識、専門的技能を養成するため		
(2) 対象者	公認会計士法第16条に規定する実務補習団体等が実施する実務補習の受講者（公認会計士試験合格者）のうち、2017年11月以降に実務補習所に入所した者 ※2		
(3) 実務補習科目	監査科目、会計科目、税務科目、経営科目、コンピュータ科目、法規・職業倫理科目		
(4) 実務補習の講義時間	372時間（内、実務補習生は270時間以上受講する必要がある。）		
(5) 実務補習科目のうち指定研修の要件となっている科目の講義及び考查の内容	税法通論	主な教材	税法総論 他（2017年実務補習指導要領適用教材）
		研修時間	6時間
	法人税実務	主な教材	法人税法総論 他（2017年実務補習指導要領適用教材）
		研修時間	30時間
	その他税務	主な教材	所得税法総論Ⅰ・Ⅱ 他（2017年実務補習指導要領適用教材）
		研修時間	24時間
	国際税務	主な教材	国際税制Ⅰ・Ⅱ（2017年実務補習指導要領適用教材）
		研修時間	6時間
	考查	考查の出題及び採点は、講義を担当した講師又は実務補習所を運営している委員（公認会計士）が行う。 2018年7月8日 税務第1回考查（120分） 所得税法概論 相続税法概論 消費税法概論 資産税概論（譲渡所得及び財産評価） 地方税法概論 2018年7月8日 税務第2回考查（120分） 法人税法（総合演習） 法人税法（組織再編税制） 法人税法（連結納税） 法人税法（各論）	
(6) 修了考查	（実務補習規則第7条4項に定める5科目） 修了考查の出題及び採点は、修了考查を運営する委員会の出題を担当する委員（公認会計士）が行う。 ・会計に関する理論及び実務（180分） ・監査に関する理論及び実務（180分） ・税に関する理論及び実務（180分） ・経営に関する理論及び実務（コンピュータに関する理論を含む）（120分） ・公認会計士の業務に関する法規及び職業倫理（60分）		
	2018年（平成30年）12月15日（土）及び16日（日）の2日間で実施。 願書提出者数 52名（対象者以外の願書提出者数 1,566名）※3 受験者数 52名（対象者以外の受験者数 1,443名）※3 合格者数 46名（対象者以外の合格者数 792名）※3		
(7) 実務補習修了要件	1 必要な講義出席単位を取得すること（1時間1単位として270単位以上取得） 2 実務補習期間中に6回実施される課題研究を全て提出し合格すること（各回40%以上、全6回の合計点が満点の合計点の60%以上であること） 3 実務補習期間中に10回実施される考查を全て受験し合格すること（各回40%以上、全10回の合計点が満点の合計点の60%以上、かつ、税務以外の考查8回、税務考查2回のそれぞれの合計点が満点の合計点の60%以上であること） 4 1～3をすべて満たした上で日本公認会計士協会が実施する修了考查に合格すること		
(8) 修了者	46名（対象者以外の修了者数 792名）※3		

- ※1 実務補習とは、公認会計士試験に合格した者に対し、実務補習規則（内閣府令第百六号）第二条及び第三条に定める内容及び方法により、1時間を1単位とすることを基本として行う。さらに、第二条に定める実務補習の内容全体について適切な理解がなされているか確認するために、第七条に定める修了考査を行う。修了考査に合格し、第三条に定める方法により実務補習課程を修了した者は、財務局長を経由して金融庁長官に「実務補習修了報告書」を提出し、確認を受け、確認番号の通知を受ける。確認番号の通知を受領することで、実務補習の修了となる。
- ※2 2017年4月1日適用の税理士法施行規則第1条の3第1項に規定する税法に関する研修に指定（2016年6月24日付官報 第5803号により公告）されたため、2017年11月以降に実務補習所に入所した者から対象となる。
- ※3 実務補習は、通常、修業年限は3年であるが、業務補助又は実務従事の期間が2年以上ある者として、金融庁に業務補助等報告書が受理された場合は、修業年限を1年又は2年に短縮できる。今年度の対象は、2017年11月に実務補習所に入所した者のうち、修業年限を1年に短縮した者である。